

会 議 録

- 1 会 議 名 北九州市公立夜間中学校を考える会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上会合
- 3 議 題
 - ・国・他自治体・北九州市の取組について
 - ・「北九州市立夜間中学校」のあるべき姿について
 - ・今後の進め方について
- 4 開 催 日 時 令和4年5月13日(金)
14時00分 ～ 15時30分
- 5 開 催 場 所 北九州市役所本庁舎 5階 プレゼンルーム
(傍聴：7階 72会議室)
(北九州市小倉北区域内1-1)
- 6 出 席 者 構成員10名
教育長、教育次長、総務部長、事務局
- 7 会 議 経 過

(1) 教育長あいさつ

教育長 会議を開催するにあたり、教育委員会を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

本日が第1回目の公立夜間中学校を考える会議でございます。

皆様におかれましては、御多忙中のところ、委員を快くお引き受けいただき、また、第1回目、今日は大雨でお足元が悪い中、本来でしたら、最近オンライン会議というものが盛んなのですが、ぜひ第1回目は皆様にお集まりいただきたく、私どもの方の希望に沿いまして、こうやって集合で会議を行うことができます。本当に心より御礼申し上げます。

本市では、これまで様々な事情で、義務教育を修了することができなかった、形式的な卒業とよく言いますが、形式的には卒業しながらも、十分に教育を受けることができなかった方々に対しまして、穴生と城南、自主

夜間学級の2校、また民間フリースクールの皆様などと連携して、支援をして参ったところでございます。

その間、平成28年に国の方では、いわゆる教育機会確保法ができたり、また昨年でございますが、令和3年の1月には、国の方から、今後5年間ですべての都道府県政令市に公立夜間中学校、少なくとも1校設置を目指すという方針が出されておりました、全国的にも社会的に、いわゆる公立夜間中学校の必要性というものが再認識されているところでございます。

本日の朝のNHKのニュースでも、札幌市の公立の夜間中学の取り組みが紹介されておりました、私も関心を持ちながら見させていただいたところでもあります。

本市でも、こういう全国的な動きを見据えながら、昨年7月に公立夜間中学の設置に係るアンケート調査を行いました。

多くの方々から回答いただいたところでございますが、アンケートに自由意見で様々記載していただいた中では、例えば、「中学校にまともに通っていませんので、学べる機会があれば、ぜひ学びたい」というご意見とか、或いは「我が子に学習を教えられるように、学び直したい」とか、様々な方からいろいろなご意見をいただいたところでございます。

本市の一定のニーズがあると私ども確認できたと考えております。

このアンケートの結果だとか、今までの自主夜間学級、民間のフリースクールの皆様などと連携して、今まで支援を進めてきました本市の今までの背景、そういったもの、また国全体の流れ等でございますので、そういったものも含めまして、本市における公立夜間中学校の方向性を定めたいと考えております。

そのために、皆様にお集まりいただきまして、様々なお立場から広くご意見をいただきたいという思いで、本会議の開催に至ったところでございます。

皆様の日頃のご活動だとか、経験を通したご意見をぜひ賜って、本会議のまとめという形で、私ども施策の方に反映させていただきたいと考えております。

構成員の皆様におかれましては、これから何回かの会議になるかと思っておりますけれども、ぜひ格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(2) 座長の選出

「北九州市公立夜間中学校を考える会議開催要項」第4条の規定により、座長は添田構成員が推薦され承認。

(3) 座長あいさつ

座長 改めまして、福岡大学の添田でございます。

林先生をはじめ北九州市の夜間中学の関係者の皆様には、大学院生の頃から大変お世話になっております。今は大学で仕事していますが、その土台をつくっていただいたとっております。本当に言葉の通り甚だ僭越ではございますが、恩返しの意味も込めて座長を務めさせていただきます。

この会議の構成員名簿を見て、私は感動しました。本当に現場をよく知る方々がお集まりです。特に自主夜間中学の生徒さんが委員に入られているケースは、私が知る限り全国でも初めてです。このメンバーだったら、北九州市の課題に即した、北九州市ならではの夜間中学のあり方が議論できると確信しております。

一生懸命勤めますので、どうぞ皆さんの力をお貸してください。どうぞよろしく申し上げます。

(4) 座長代理の選出

「北九州市公立夜間中学校を考える会議開催要項」第4条の規定により、座長代理は緒方構成員が推薦され承認。

(5) 議題① 国・他自治体・北九州市の取組について

浜崎企画調整課長より説明【資料4】

座長 ただいまの説明に対して、ご質問等ありましたら、挙手をお願いいたします。これからの議論の基礎になりますので、どうぞ些細な確認事項でも構いません。いかがでしょうか。

ご質問がないようですので、城南中学の補足など、ご発言いただけることがあればお願いいたします。

B 構成員 「北九州市に夜間中学をつくる会」は、いろいろな団体の方たちから力をお借りして1998年に作りました。それから、7年間ずっと、教育委員会とか、市との交渉をしております、その中で、2004年度に教育委員会の窓口ができました。

当時は、後ろ盾になる法律がなかったので、教育委員会と、つくる会とで知恵を出し合って、どうすれば、学校で勉強したいという人のニーズにこたえられるかを話しあいました。結果、今の、北九州方式という形が生まれました。青春学校と「よみかき教室・城野」という二つの自主夜間中学を、市が援助するという一方で、運営補助金と会場の無償提供を受けることになりました。それに伴って、穴生・中学校夜間学級と、城南中学校夜間学級と名前を変えて続けています。

当時は、後ろ盾の法律もなかった時代でしたので、公立の夜間中学を作るにはハードルが高いということをお互い認識しました。公立の夜間中学開設を待っている間に、勉強したいという方の年齢がどんどん高くなっていくので、このままじゃいけないということで、今の形になっているわけです。

座長 ありがとうございます。北九州方式ですね。自主夜間中学支援の経過について補足いただきました。

A 構成員からも、よろしければ一言お願いできますでしょうか。

A 構成員 穴生・中学校夜間学級の前進である青春学校が始まって28年目になります。その間20年以上通い続けてきた方が今も数名いらっしゃいます。その中の一人が、この3月の修了式の際、「私は27年間夜間学級に通ったことを誇りに思います」と言われました。この会議の話がありまして、生徒さん達にどんな夜間中学が望ましいですかとたずねたら、「これからも、行きたい。」とおっしゃる。もう86歳になられる方ですけども、本当に学びたいという意欲、学校に対する思いがあると思います。

座長 ありがとうございます。

(6) 議題② 「北九州市立夜間中学校」のあるべき姿

座長 続きまして、議題2、北九州市立夜間中学校のあるべき姿について、事務局から提案があるということですので、よろしくお願ひします。

事務局 ここでは、構成員の皆様から、それぞれがお考えになる夜間中学校のあるべき姿を、ご自由にお話いただきたいと考えておりますが、例えば、ご自身の経験とか、支援で携わられた方のお話とか、個人情報に触れることも危惧されますので、以後のお話を非公開とすることも可能と考えております。

本会議の要綱には、座長が判断した形で非公開とすることができる規定がございますので、一旦、皆様でご検討いただいて、あるべき姿を語るにあたって、そうした心配がない形でのご発言をされるのか、公開のままでも構わないのか、ご検討いただければと思います。

座長 構成員の皆様いかがでしょうか。

会議を非公開とすることも可能だということです。また、議事録についても、名前ではなく、A・Bという形で残してもいいとご提案いただいております。

(座長が構成員にたずねる)

今まで経験した事実なので公開でも構わないとのこと。

要綱では原則公開となっておりますので、繊細な内容に関しては公開前に相談していただきながら、確認する形でよろしいでしょうか。

では、構成員の皆様のご意見を踏まえて、本会議を引き続き公開とさせていただきます。

議事録はいかがでしょうか。名前が入ってよいか、名前は伏せてABCか。

(それぞれから発言あり)

では、会議は公開で、議事録に関しては、名前を伏せて、ABCという形をお願いするという形で、よろしいでしょうか。

ではそのように進めていただければと思います。

それでは議題2のあるべき姿について入ります。

北九州市が設置する公立夜間中学校のあるべき姿と役割、そして、あるべき姿と役割の実現に向けた、学校づくりの視点を、本会議では検討することとしております。

そのために、誰が通う学校なのか、そしてその学校にはどんな機能が必要なのか。

資料の内容について、構成員の皆様、それぞれの立場から、お考えをご発言いただきたいと思います。

どこにあるといいのかとか、どんな教育とか、学校施設がどうなのか。

どんな学校行事とか、生徒会はどういったものが必要なのか、どういった観点からでも構いませんので、お1人3分を目安にお願いできればと思います。

A 構成員 夜間学級の生徒さんとスタッフに、こんな話し合いがあるからと聞いてきました。

学習者の声としましては、やはり一番に交通の便利なところですか。それから、バリアフリーの校舎、今は車椅子などいろんな方がいらっしゃるから。給食があったらありがたいとかですね。それから学習については、年齢に合わせた学習をして欲しいということと、きめ細かい一対一の学習。

うちの学校には、耳の聞こえにくい方がいらっしゃるの、手話通訳もいるだろうと、他の生徒さんがそう書かれていました。

現代にあったようなパソコンの学習もしたい。スタッフとしては今のことと全部合わせもって、様々な背景を持った生徒、一人一人に沿ったきめ細やかな対応ができる体制が欲しいということです。

それから学習すること、学校にいたることが、楽しいと感じたり、こんなに自分は成長できたんだと感じたりできる、そういう場でありたいということ。

学習者の年齢や、ニーズに合った教材の使用が必要だろうと。字がわからないからと小学校の本を使うと、何のためにこれを勉強するんだと疑問を持たれた方もいます。

ですから私たちは新聞記事とか、他にも、時事問題なんかも入れながら学習を進めておりますので、そういうことが必要だろうと思います。

いろんな背景を持っていらっしゃるって、職場での腹立たしい経験をひとしきり話さないと、学習に入れない方もいらっしゃいます。そういう方の相談体制として、養護教諭とかカウンセラーとかが必要ではないかと思えます。

不登校の方のなかには、ご家族の方も自覚しないで発達障害の方もいらっしゃるのではないかと。発達障害に関する知識を職員が持つことが必要ではないかと。

そういう研修が必要ではなかろうかということです。

それから、就学援助制度ですね。

それから学校行事があると仰っていましたが、様々な学校行事もあって人との交流が必要。

他市町村からの受け入れも考えてほしいと思います。

現在直方市や水巻町から通ってきている方もいらっしゃいます。

座長 ありがとうございます。

事前に教室でお話を聞いてきていただけたということで、非常に多岐にわたる大事な意見をいただきました。

重ねたところがあっても全く構いませんので、B 構成員どうぞよろしくお願いします。

B 構成員 夜間学級ですが、昨夜運営委員会を開いて、明日こういう会議があるので、どんな話をしたらいいとか、まとめてもらいましたけど、結局、私たちが夜間学級をはじめたのは、文字を知らないですっと困ってきた、差別を受けていた人たちが、自分を取り戻すための学校にするんだということで始めたわけです。

最初は、公民館の教室をお借りしてやっていたんですが、その中で生徒さんたちはやっぱり、学校の教室で勉強したいんだ。机について勉強したいんだということを言われるようになりました。

それで、何とか中学校の教室に入るということはできないだろうかということが、それから後の活動のメインになりました。

そういう中で、やっぱり学んだ人たちは、「勉強をするということは、自分の生きがいを見つけることだということ」と話されました。そのサポートを私たちがやると。そのために、教育委員会と相談をして、教室を使わせてもらう。或いは、いろいろな、学校施設も使ってもらおうということで、今、お世話になっております城南中学校と、とてもうまくいっています。

生徒さんの 1 人は、「私は中学校の時に不登校でした。で、私が校門を

入るときに、部活の生徒さんが、こんばんはって言って帰ってくれる」と。

「その時に、ああ、あの時の私だなということをフィードバックするんですよ」と言いながら、教室に来ているんです。

だから、ぜひそういった昼間の生徒と、触れ合いができるような形で、学校にしてもらえると、学ぶ生徒さんたち、どちらも昼間も夜間も、刺激し合っているんじゃないかと思っています。

特に城南中学校の校長先生から、「うちの生徒が、夜間学級の皆さんを見て、とても学ぶ意欲を大きくしています。」或いは、「文化総合発表会と一緒に参加していただいてありがとうございます」というようなことを言われていますので、昨日の運営委員会では、ぜひ、昼間の中学校と同じところで学べるような形で作っていただけたら嬉しいなということをおっしゃっています。

それから、夜間中学に関わる先生方に、いきなり4月の異動で、はい、どこの夜間学級に行きなさいと言われたのでは大変だと思うから、そういう先生方の育成という失礼ですけど、夜間学級の生徒さん、今言われたみたいに多種多様な生徒がおりますので、その生徒さんのニーズに合うような方を、委員会としては選んでいただきたい、作っていただきたいと、要望が出ておりました。

座長 ありがとうございます。

それでは、C構成員をお願いします。

よかったら、学校に来られるいきさつも含めてお願いしたいと思います。

C構成員 私は夜間学級に通い始めて、20年になります。

私は子どもの時に家が農家でして、妹や弟の面倒見るために、学校に行けなかったんですね。

それがすごく悔しくて、いつか学校に行ってやろうと思って、昼間の学校には絶対いけないから、ずっとつらい思いをしていたんです。

それでも小学校3年しか行ってないけど、運転免許も一発で取れました。負けず嫌いなんです。

だから、夜間学級っていうのができたら絶対行くと思って。

近所の方は、やっぱり農家の人で。「私、夜間学級ってところに行っているのよ」と、それを聞いて、私うれしくてうれしくて、夜間学級を訪ねて、絶対勉強したいからって。

それで夜間学級で勉強しだして20年です。

勉強はもう一生続けなきゃと思って。すごく楽しいですよ。

先生方もやさしいし、生徒の皆さんも明るいし、みんなで和気あいあい、勉強しています。本当にありがたいです。

夜間学級をずっと続けていただきたいなあとと思って。これからもよろし

くお願いします。

座長 ありがとうございます。続きまして、D 構成員どうぞお願いします。

D 構成員 不登校の生徒に限った内容になってしまうんですが、本校では入学の前に必ず面談を、保護者の方と本人と、私で必ず、2回以上はさせていただき、高校でどういうことをしたいですかと必ず聞きます。

そうすると、ほとんどの生徒が「勉強頑張りたいんです」という返事が大変多く返ってきます。

また「友達を作りたいです」という返事もたくさん聞こえてきます。

今までどうだった、学校の様子はどうでしたかと聞いたら、「学校は嫌いです。だから行きたくなかったです」という話もよく聞くんですけども、勉強はやりたいんだという気持ちを多くみんな持っているんだなということを感じています。勉強は、本当にしたくなくてやっていないのではなくて、やりたいけどできなかった。

そういう環境が自分の中ではなかったんだということで、高校では心機一転やりたいという子が大変多くいます。

周りのみんなが、当たり前のように学校に通って勉強してきたっていう、当たり前のことを自分ができなかったというところが、とてもコンプレックスというか、マイナスの感じを持っていることも多いので、だからもう、青臭い言葉なんですけども、「青春をしようよ」と。保護者の方も楽しく学校というところに通ってくれたら、それが一番うれしいよっていう話が大変ありますので、勉強を通して、自分に自信をつけさせたいということで、そういう場所が夜間中学校で対処できればなと思っています。

勉強ができる、できないは別として、何か頑張って取り組んだという経験が自信になって、次、こういうことやってみようかなというような、次のステップにもどんどん繋がっていきますので、そういう居場所として、作っていきたいという思いがあります。

あとは、勉強だけじゃなく、いろんな人との関わりですとか、いろんな体験・経験ですね、学校行事も検討されているところですが、やはりいろんな人と関わっていろんな感情を感じて、自分の人間性というか、育まれる場所であると思いますので、勉強だけではなく、様々な人間として育っていくような場所というものができればと考えております。

座長 ありがとうございます。続いて E 構成員お願いします。

E 構成員 夜間学校に入学して来られる方は、様々な経験をして入学してくると思います。

それぞれ、夜間学校に入学してこられる方が、夜間学校に行きたいと。楽しいと。勉強が楽しい。だから、学校行事も楽しいと。来てよかったという思いが一番大切なことだと思います。

そのためには、教える側に、とても重要な働きがあると思います。生徒さんの思いや考え方をしっかりと受けとめて、一緒に勉強していくということですね。

そういう環境がとても大事ではないかなと思います。教える側の研修ですね。

しっかりとした研修をして、教壇に立つと、生徒と先生も信頼関係を作るということですね。

そんなことが一番大事ではないかと思います。

座長

ありがとうございます。F 構成員お願いします。

F 構成員

私は仕事柄、外国人のお子さんや、外国籍ではないけれども外国にルーツを持つお子さんたちの教育に関する相談に乗ることがあります。

中学を卒業していない生徒さんについては、教育委員会につないで、中学校への編入学や、必要があれば日本語指導も受けられています。でも一方で、中学卒業後に来日して、日本の中学校に行きたいという、16～17歳のお子さんたちに対しては、提示できる選択肢が非常に限られてしまうので、たとえ、学齢が超過していても中学校を卒業していなければ、「ああ、よかった」と思ってしまいます。「卒業していなくて良かった」というのも変なんですけれども、そこが中学校に通えるかどうかの線引きになるので。今回の夜間中学校は、中学校を卒業していても入れる、というところに非常に魅力を感じまして、またとてもありがたく思っております。

ここしばらくコロナ禍で入国制限がかかっていましたが、徐々にその制限が解除されつつあるので、今、日本で働いている方、また結婚して日本に暮らしていらっしゃる方のお子さんの海外からの呼び寄せが再開しています。そんな中で、子どもたちのうち、下の子は中学校・小学校に入れるけれども、上の子は学校に入れないというケースも早速出ています。下の子は学校に毎日行って、友達もできて、日本語にもだんだん慣れてきて、日本の生活を楽しめるようになってきているけれども、中学校に入れない上のお子さんは、日本語もできないので友達づくりも、仕事をすることもできないし、高校受験のハードルはとても高いし、行き場がないまま孤立して過ごしている状態。そういったケースは珍しくないです。

市民ボランティアさんたちが市内13か所で日本語教室をされているので、ご案内するんですけども、それぞれの教室がだいたい週に1回だけの活動なので、それだけでは規則正しい生活もできないし、母国では学校に通って友達もいてという状態から日本に来てうまく適応できず、途中で挫折することも多いです。大人の方であれば、ご本人の意思で来日されて、仕事をしながら日本語教室にも行って、頑張っていこうということにもなりますが、お子さんの多くは呼び寄せられて、またはお父さんやお母

さんの都合で来日されているので。

そこで、公立夜間中学校では、国籍にかかわらずそして日本語のレベルに関わらず通えるといいなあとということ、そして先ほどの説明の中で、「日本語だけを学びたい方は日本語学校へ」というお話があったんですが、中学校を卒業して来日した子たちは「日本でも勉強したい。日本の高校にも行きたい」と言います。また「できれば大学にも行って、日本で仕事をしたい」と言う子も多いです。経済的に難しい場合もありますが、少なくとも公立夜間中学校では、日本社会で生きるための基礎を学びながら日本語の習得ができるといいなと思っております。そしてその日本語習得のためにはやはり、お昼の中学校のように日本語指導の先生がいて、日本語を学べる機会も欲しいです。

どこに、については、アクセスのいいところ、そして願いが叶うのであれば送迎バスがほしいです。まず、日本語ができない方は、バスが乗れない方たちも多くって、市内のいろいろなところに外国人の方も散在しているので、通学バスがあればいいなと思います。

福岡市では夜間中学ができるという話を外国人の方にしたときに、「でも、夜だったら（危ないから）通えないね」と、16・17歳の娘さんを持つお父さんから言われたことがあるんです。心配されるお気持ちもよく分かるので、ぜひ「アクセスのいいところ」プラス「バス」があったらありがたいです。

また、学校行事についてですが、学校のよさは勉強だけじゃないと思うので、週5日顔を合わせる、同級生や先生や先輩後輩という関係性の中で、生徒会など行事を通して、自分らしさ、自分が生きていてよかったと感じられるような活動にも参加できるといいなと思います。

座長 ありがとうございます。G 構成員お願いします。

G 構成員 思いついたことを、話していきたいと思えますけれども、まず、アクセスがいいかどうかというのはとても大事だろうなと思います。

YELLがウェルとばたを使用しております、戸畑駅から歩いて5分もかからないところ、バス停も歩いて5分かからないところにありますし、それと若者が1人で来られるというのがかなりメリットになっています。

JRに乗れない若者、それからバスに乗れない若者というのが、実際にはYELLにはおりまして、そうやって公共の交通機関に乗せて、やっと自立していくってということも結構いるからですね、なんか、あそこが行きやすいからちょっと行ってごらんよ、といえるような場所だと、自立のための一歩になるのかなと思っております。

あくまでもYELLの立場ですので、夜間中学がどうかっていうのはまた別の議論になるかと思えますので、まずはアクセスがいいところという

のは、人が集まりやすいかどうかというのがとても大事なんじゃないかなと思います。

何を学ぶかというところですけども、様々な科目を学べるところがいいなと思っております。

今YELLでも学び直しをしたいと言っているお子さんがいて、そういう方が、実際に先生についてもらってちょっと学んでいるところがあるんですが、そういったお子さんもいる中で、今はその子は高校に行きたいという話で、中学の基礎の勉強をしっかりとやっているということがあるので、今までの中学校の基礎から高校に行けるだけの学力があるといいのかなと思います。YELLは、ひきこもりとか不登校とかの方がたの支援機関でもありますので、そういった機関がどういうことをしているかということ、社会経験がない、部活動もしたことがないとか、文化祭とか体育祭にも出たことがないという若者も結構いらっしゃるので、そういう、社会に出たときに、「こういう経験ってみんなしてきたよね」ということを通らずにきた若者が結構います。

そういった方々に、何かそういった経験をしてもらおうということで、いくつかイベント的なこともやっております。

ウェルとばたの2階でアート展示会という、絵とか写真とか、ガンブラとか何でもいいんですが、そういった作品を作って展示するという会を行ったり、あとは芸術体験といって、北九州芸術劇場さんと共同で行って、演劇体験をすることによっていう機会もあったりもします。

そういったみんなと一緒に何かをするという活動を通して、それが文化祭だったり、また体育祭だったりというような本来、他の方々が実際に行ってきた体験を、違うところで、行うことができ、他の方々たちがそういう話をしていた時に、ああ自分もこういった経験をしたことがある、ああいった経験をしたことがあると、何かそういったお話ができると、通われている方々にとってはいいなと、若者支援の視点からは思います。

YELLに来る方々は、中学校で不登校の方もいますし、高校中退後、進路未決定の状態で来られる方もいらっしゃいます。

そういった方々はやっぱり次へ進むためのステップという形で、YELLを使われる方が多いので、そういった方々には基礎学力、それから様々な体験をする、それから社会性を身につける、そういったものもあるといいのかなと思っております。

また、今、様々なICTを使ったいろんな技術も、学校の中で学べるっていう動きでもありますので、そういったものも必要ですね。

親御さんがそういう機器をなかなか使われないご家庭だと、家の中で、誰がどんなふうに教えるのか、いつ学ぶのかっていうのも、なかなか難し

いところもあるので、そういった一端を担っていただけると良いのかなと思います。

座長 H 構成員お願いします。

H 構成員 もうすでに 7 名の方にお話しいただいた内容と重複する点が多いんですけれども、私なりの言葉でお話しさせていただこうと思います。

自分がこのお話をいただき、どんな生徒が通うだろうかと考えたときに、やはり先に浮かんだのは形式的に中学校を卒業した不登校生徒だと一番感じました。

その卒業生達は どうして不登校になったのかということ考えたときに、学力の不振であったり、それから発達障害を含めた人間関係のつまずきであったり、それから、ヤングケアラーという言葉で代表されている、中学生小学生が幼い兄弟の世話をするとか、高齢者の世話をするとかということで、家族の役割を与えられて、学校に行く機会を奪われるということ、大変話題になってはいますが、これは今に始まったことではなく、ずっと以前から、そういう役割を与えられて、学ぶ機会を奪われた子どもたちがいましたので、そういうことで不登校であったという子どもたちもいました。

もちろん不登校の原因ってというのは一つではありませんので、幾つもの要因が絡み合って、不登校になった子どもたち、学べないまま、中学校卒業していった子どもたちが浮かびました。

ではその子どもたちが何を夜間中学校で学ぶのかということ、やはり勉強が第一、勉強は第一なんですけれども、それ以外の学習以外の経験をして欲しいという思いがあります。

人間関係、先輩後輩の関係であったり、友達関係であったり、そういう当たり前の、中学時代に経験したであろう人間関係を経験して欲しいし、いろんな意味で、学校生活を取り戻す。

子どもの時代であったり、青春時代であったり、それを取り戻す場所で、夜間中学校があっても欲しいなと思います。

先ほどから出ています、アクセスが良い場所で学んで欲しい、通いやすい場所で学んで欲しいということがありますが、どんな教室、学校が理想的か、どんな機能が必要かとなった時には、やはり学習できる教室も必要だけれども、スポーツであったり、学校行事であったりができるようなホール、ちょっとしたスペースが確保できるようなところがあるといいかなと思っています。

先ほどのお話にもありましたが今 ICT、いろんな支払い等も電子決済が進んでいますし、そういうことを逆に利用した詐欺等もありますので、そういう進んだテクノロジーに対する知識もやはりつけて欲しいなと。そ

ういうことも学んで欲しいなと思います。

座長 ありがとうございます。I 構成員お願いします。

I 構成員 私の施設には、今小中学生、現時点で25名の不登校の子どもが来ています。

昨年は最終的には92名、本施設だけでこれだけの数ですので、市内には、この施設に来られている子どもたちはまだいいけれども、来られてない子どもたちがたくさんいると思います。その子たちの方が実は心配です。

ほとんどの子どもたちがいろんな理由で、今いろいろお話があった通りで、様々な理由で学校に行けていなくて、とにかくお母さんが子どもを家から出したい。というのがまず一つです。

お母さんと子どもの精神的な安定が、支援室に来ることによってだんだん生まれてきているような気がします。

卒業していくときには、将来の進路が決まったりして、明るい顔が見える。卒業した後に、通信制・単位制の高校が多いのですが、高校に行きながら、今度は悩みを言いに来たり、明るい姿を見せに来る。そうすると今度は、親も安心をする。そういう施設、学校があるべき姿じゃないかな。

その時に、この支援室では様々な方にお世話になっています。

療育センターの先生であったり、精神科の先生であったり、それから、SSWであったり、スクールカウンセラーであったり、子ども総合センター（児童相談所）であったり、YELLであったり、様々な方から応援をいただいて、子どもたちに明るい光が見られるように、我々も今、サポートしています。

従ってこの夜間中学校に、学び直していきたいという子どもも出てくるかもしれませんけれども、いろんな子どもさんが学びに来るでしょうから、やはり支援が必要だなと、いろんな熱いサポートがあるといいのかなと。

おそらく年齢層もすごく差が出てくるでしょうから、そこをいろんな形でサポートできれば、充実してくるのかなと思っています。

座長 みなさま、ありがとうございました。

私も一言お話をさせてください。

まずみなさんのお話にもありましたけども、やっぱり学校は先生の存在が大きいと思うんですね。「良い先生」が常にいてくれることが一番です。研修はもちろん大事ですが、人事異動でも。先生方のキャリアルートの中に夜間中学をどう位置づけるのかという点も、あわせてご検討いただければと思いました。

二つ目が、当事者の運営参加です。今回、構成員に夜間学級の生徒さんが入っていただくこと私本当にうれしいですし素晴らしいなと思います。生徒会活動もそうですけども、先生方がきちんと生徒に対してリスペクト

を持っていただきながら、かつ、生徒の声を大事にして、生徒と一緒にですね、学校を作っていくような、そういった姿勢をぜひ、お願いできればと思いました。

三つ目が、パートナーシップです。他団体、特に教育関係以外の団体とも繋がりながら、力を借りながら、場合によっては逆に自分たちの力をお貸しするような、そういった関係が築けるかが大事だと思います。常に外部と繋がって、外部と一緒に、いろんな課題がこれから起きてくると思うので、解決するためにも、そういった繋がりを大事にした学校が大事かと思います。

四つ目が、アクセスの保障。なるほどスクールバスがあったらいいなと思いました。青春学校もそうですよね。小倉南インターのあたりから八幡西区の穴生まで通われている方もいらっしゃいました。車を毎回出してくれるスタッフがいたからです。

アクセスの保障という点では、交通アクセス以外も考える必要があります。例えば、子育て中の方、外国にルーツのある方、家族の介護をされている方、きょうだいの世話をされている方など。夜間中学の生徒さんから、旦那さんが亡くなってようやく自分の時間ができて、学校に通えるという話をよく聞きます。そういったことが、新しい夜間中学では少しでも解消できたらなと思いました。

どこか言い足りないところとか、もう少し強調したいというところがあれば、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。賛同でもいいですし、もう少しここを聞きたいとか。ご指名いただいても構いません。

今日いろんな話を聞かれていて、印象に残ったとか、私もそう思うという点があったら、発言していただくと嬉しいですけど、いかがでしょう。

C 構成員 私はもっともっと、勉強がしたいんで、どうか夜間学級を続けていただきたいです。

城南中学の夜間学級を始める前に、門司駅前とか、小倉駅前や戸畑駅前で署名活動をしたんです。もうみんなで署名活動して、夜間学級を作りたいってことを。それがかなったから、私たちは本当に嬉しくて。

本当にありがとうございます。

座長 とても大事なご指摘だと思います。学び続ける環境を作れるか。

今の自主夜間中学の継続もそうですし、あとは新しくできる学校の就学年限をどう考えるかっていうですね、何年そこで学べるかっていう。

C 構成員 いつまで続けられるかってことですよ。

座長 そうですね。ありがとうございます。

A 構成員 それに関してなんですけども、先ほど27年間学んだ方のこと言ったんですけれど、やっぱり一度は行ってみたい。でも彼女が80代後半で、毎

日通うのは、難しいので、週1でも月1でも在籍してみたいという思いがあるならば、そういう願いも叶えていただけたら嬉しいと思います。

それから車で通勤されている方には駐車場も必要だろうという声も出ております。就学年限は柔軟性を持って、3年と決めないで、何年、いつかは卒業しないといけないんでしょうけど、どれぐらいの延長ができるのか。

それから、4月だけの入学じゃなくて途中からも転校生みたいに、入学ができるような形も欲しいという声も出ております。

座長 ありがとうございます。

札幌市が4月だけじゃなくて、5月も受け入れを引き続き受け入れ募集を行い、11名がまた新しく入ってくるということでした。

B 構成員 北九州夜間中学をつくる会と教育委員会で、実は6年間かけて、こんな夜間中学を作ろうという提案を作ったりしているんです。

機会がありましたら、そういうのも話題にさせていただければ、どんなものを要求していたかっていうこと。例えば、就学年限については、委員会の方から、逆に就学年限はあえて決めない方がいいんじゃないかというご意見をいただいたことあるんです。

だから、ご本人が納得して、もう卒業すると言ったら、3年でもいいですし、4年でもいいですし、とにかく柔軟な取り組みができる形にしてもらったらいいのじゃないだろうかということも、話し合いをしました。

だから機会がありましたらまた、提案をしたいと思っています。

座長 どうもありがとうございます。他いかがでしょうか。あとお一人くらい。

D 構成員 設立中のことになると思うんですが、やはり、認知、こういう場所がありますよというのを、広く知らせることも大事なかなと思います。

特に本当に困っている方っていうのはなかなか相談できずに、あと相談できる場所がわからずに、どうしても孤立してしまっている保護者の方も多くいらっしゃるかと思いますので、こういう場所がありますよというのを広く知らせて、より多くの方に開かれた場所になるといいのかなと思いますので、その広げ方、これも考えていかないといけないかなと思います。

座長 ありがとうございます。

作って終わりじゃなくて、夜間中学を知ってもらって、地域というか、当事者の方たちも一緒に使っていただく。そういった認知度をどう高めていくか。

それでは、皆様ご意見ありがとうございました。

皆様よりいただきましたご意見を事務局で整理して、第2回の会議で、みなさんにご提示していただく予定です。

最後に、今後のスケジュールについて、事務局から説明いただきたいと思います。

思います。

(7) 議題③ 今後の進め方について

浜崎企画調整課長より説明【資料6】

座長 ただいまの事務局からの今後のスケジュールの説明についてご意見であつたり、確認したいことありますか。

ご意見がないようですので、今後のスケジュールについては以上とさせていただきます。

私から一つお願いというかご提案なんですけど、せっかくいろんな団体の方もおられるので、それぞれのお立場に関しての簡単な情報があると、「もう少しここについてこの方に聞きたい」とか言いやすいのかなと思います。北九州の方なので、お互いの活動についてはご存知かもしれませんが、資料があるといいなと思いました。

それでは最後に、本日の会議のご所感を、教育長より、一言お願いいたします。

(8) 教育長所感

教育長 座長をはじめ、構成員の皆様におかれましては、活発なご意見いただきまして誠にありがとうございました。

皆様の意見を伺いながら、私ども行政としても、皆様と本当に同じ思いで、今まで内部でも打ち合わせをして参ったわけですが、思いが一緒の部分、そしてまた、お話を伺いながら、なかなか私どもの内部から出てこないようなご意見も、いただくことができました。

第2回目が7月1日と予定されております。皆様のご意見をすべて盛り込むことは難しいかもしれませんが、たたき台ということで、できるだけご意見を盛り込む形で、まとめてみたいと考えております。

私どもと同じ思いだなと思う部分は、多くの皆様のご意見の中に、「学習は楽しいという場にぜひしてほしい」という、気持ちが溢れたのかなと思います。

夜間学級が生きがいというお話や、勉強が楽しいというお話。あと、「来てよかった、学んでよかった」や、「学ぶことが楽しいと思える場所にしてほしい」というお話、やはりそこが原点かなと感じたところでございます。

あとは柔軟な対応ですね。それこそ年齢層も幅広く、また日本だけではなく、海外からの方もいらっしゃることを考えれば、できる限り柔軟ということは、キーワードとして大切であります。そこをどこまで柔軟に対応できるかということは、今後、できるだけ、大切に考えたいところで

ございます。

最後に、生徒だけではなく、先生も学ぶ場であるということ。それは大切にしたいと考えております。

構成員の皆様におかれましては、第2回目で私どもの方からのたたき台を示させていただきますので、そちらでもまた活発にご意見賜ればと考えております。

今後とも引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

座長

どうもありがとうございました。本日の議事は以上です。

8 問い合わせ先

教育委員会総務部企画調整課

電話番号 093-582-2357